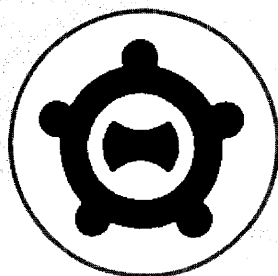


総合繊維産業都市



■一宮市

I C H I N O
M I Y A

愛知県の西北部、名古屋市と岐阜市との中間に位置する本市は、木曾の清流と温暖な気候、風土、交通の便に恵まれ古くから栄えてきました。

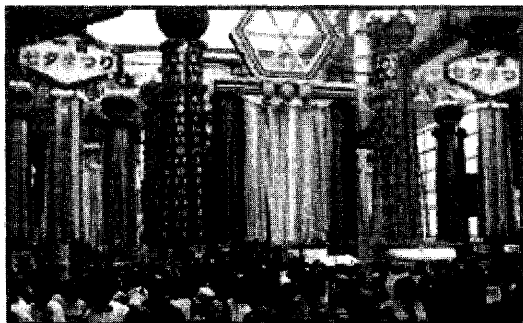
本市の主要な産業である繊維産業の歴史も古く、平安時代には絹織物の産地として、江戸時代になると綿織物の産地として発展してきました。また、明治以降はいち早く工業化に着手し、毛織物の産地として急速な発展を遂げ、現在、紡績・撚糸・染色・織・整理・縫製と、一貫生産する総合繊維産業都市として世界に知られています。

市としても、昭和26年より織物競技大会、平成3年にはファッションショーとコンテストを中心としたFATEX事業、翌年からは名称を変えてジャパン・テキスタイル・コンベンション事業、平成14年からはジャパン・テキスタイル・コンテストを開催するなど、時代のニーズに応じた各種施策を実施し、繊維産業における技術力、デザイン力、マーケティング力の強化と人材育成を目指して参りました。



また、その一方で、産業の複合化を図るため、電子機器メーカーや、物流企業などを誘致し、交通の利便性を生かした産業拠点の形成に努めているところです。

農業面では都市近郊型農業が盛んで、代表的なものは、施設野菜や露地野菜、花きの生産です。生産量は、施設なす・ねぎは県内でも上位であり、花きは全国一を誇っています。「尾張なす」「千秋ねぎ」「おりひめ米」「うきのタマゴ」「鮎の一夜干し」「福来蜜（ふくらみつ）」などが地場産ブランドとして人気があります。



また、本市には、伝統のある祭りや行事が数多くありますが、その中でも「おりもの感謝祭一宮七夕まつり」は日本三大七夕まつりの一つと称され、市民を始め県内外の多くの皆様に親しまれています。